

# 令和5年度 延岡市立東小学校 学校評価書

## 1 評価の観点

- 「自立」 自分でできることは人を頼らずやり抜く個の強さ
- 「誠実」 高度な情報化社会の中で、倫理的に生きる資質
- 「希望」 ワクワク感のある未来を希求する力
- 「コミスク」 学校・家庭・地域の連携による教育コミュニティづくりの推進

## 2 評価の方法

- (1) 教職員、保護者、児童を対象にした学校評価アンケートの実施と集計
- (2) 教職員による結果分析、改善点の協議
- (3) 学校運営協議会委員による評価及び熟議

## 3 評価結果

	アンケート結果の分析	改善点及び方策
自立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年度に比べ、自ら進んで表現しようとする教育目標に向かう児童が育ってきている。</li> <li>○ 児童の自己肯定感は全体的に高い傾向にあり、自分のことは自分でできる児童も多い一方で、二極化傾向も見られる。</li> <li>○ 基本的な生活習慣の定着については、保護者や教職員は課題と感じており、児童の自己評価との間に認識の差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学校教育目標実現プラン」を各校務部で策定し、プランに沿った教育活動を進めていく。</li> <li>○ 児童が主体的に活躍できる場を多く設定するとともに称賛の機会を設け、自己肯定感のさらなる高揚を図る。</li> <li>○ 基本的な生活習慣の定着を図るために、生徒指導部を中心に「4つのあ」について、継続的に指導していく。</li> </ul>
誠実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちのことを理解し、誰に対しても優しくできる児童が多い一方、人の迷惑にならないように正しく行動することに関して、課題と捉えている児童が一部に見られる。</li> <li>○ メディア利用に関しては、三者とも課題が多いと捉えている。メディアコントロールについては、自己分析や保護者への啓発を行っているが、効果は不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様性を受け入れる雰囲気をお大切にしながらも、周囲に迷惑となるような行動については、規範意識を高める即時指導を行う。</li> <li>○ 学校保健委員会、家庭教育学級の取組や学級懇談会を効果的に活用し、メディアコントロールの意識を高める。</li> </ul>
希望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽しい学校生活を送ることができている児童が大多数を占めており、保護者・職員も同様に評価している。</li> <li>○ 目先の楽しさだけでなく、将来的な夢や目標に向かって努力を重ねる態度を育成することが、今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が引き続き、楽しい学校生活を送ることができるよう、ワクワク感のある教育活動を展開する。</li> <li>○ 授業や学校行事の振り返りの時間を確保し、適切に価値付けるとともに、将来への希望をもつことができるようにキャリア教育の充実を図る。</li> </ul>
コミスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍で、行事の中止や規模縮小も続いた影響もあり、地域との連携に関する部分に課題が見られる。</li> <li>○ 特に児童のアンケートでは、地域人材を活用した学習の機会が少ないとの回答が多く、地域との連携・協働による学習に対する、児童の希望や期待が感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域人材を活用し、児童が本物に出会う機会を確保するとともに、学級通信や学校ホームページで発信する。</li> <li>○ 学校図書館をコミスクの拠点とした取組を推進し、保護者や地域を巻き込むためのプラットフォームの開発を目指す。</li> </ul>

## 4 学校関係者の評価

- 子供を中心とした学校運営がなされており、今後も子どもたちの笑顔が溢れる学校づくりに大きく期待している。
- コロナ禍で停滞していた地域との連携・協働による活動も少しずつ動き始め、地域とともにある学校づくりが、再び進みはじめたと感じる。
- 子どもたちが自らの将来に、夢や希望をもつことができるようなキャリア教育の充実をお願いしたい。地域人材や「よのなか先生」を活用した取組を進めていくとよい。
- 子どもの健全育成には、職員が笑顔で教育に取り組むことが重要である。行事等の精選を図りながら、学校の働き方改革も進めていく必要がある。